

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所(放課後等デイサービス) きらめき読谷		
○保護者評価実施期間	2025年1月6日		2025年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2025年1月6日		2025年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な看護師がいることで様々な医療的ケアを施すこと出来るため、保護者が安心できる。	特に病院から退院した後等の体調管理で保護者の不安感に対し、来所や降所時以外にも利用中の様子を必要に応じLINEなどを使い情報共有するようにしている。	可能な範囲で看護師同乗での車両送迎を実施しており、車内で適時吸引を行っており、継続するために福祉車両の運転手確保など人員配置を充実させたい。 土・祝日のレスパイトでの受け入れなど、余裕のある看護師配置が出来るように取り組んでいる。
2	経験のある児童指導員や保育士により、視覚や聴覚の重複障害のある児童へも身辺自立に向けた日常生活支援や様々な余暇活動の提供が出来る。	基本的な5領域の本人支援、家族支援、地域移行支援を全職員で確認して支援ができるように意識している。 地域移行では学校生活の様子を担当の先生と情報共有することや、学童併用および移行に繋がる自己管理能力向上の支援を意識している。	全職員が補充し合える支援の仕組みづくりのために、各々の職員が基本的な業務を覚える。 役割分担やお互いの強み弱みを知りフォロー体制を強化して、より良いケアの基礎固めと継続を図る。
3	理学療法士や出向で来る言語聴覚士により、肢体不自由および重症心身障害児の身体や口腔機能の評価および療育視点での支援が行える。	スタッフへの情報共有と支援方法の伝達により、多くの職員が安心してケア出来るように意識している。 家庭や保育所と連携して座位姿勢や補装具、歩行器、車椅子の使用方法および管理微調整実施。保護者から医療機関の情報を共有して摂食嚥下訓練を積極的に実施。	積極的に医療や療育関係機関との連携を図り、地域でも充実した療育が継続して受けられるように取り組みたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全員が集合しての業務分担など情報共有する時間が取りづらい。	送迎支援と時差出勤であり、多機能型で未就学児童の昼食介助や要観察で切れ目のない支援時間である。	受け入れ時間以外の短い時間に業務内容の情報共有と一貫した支援方法の同意を得る仕組みとルールづくりが課題。
2	地域支援で児童館や公園など地域の児童が集まる場に行く機会を設けづらい。	水分摂取や栄養摂取が経管注入の児童や排泄や移動面で身体介助や医療的なケアに時間を要する児童が割合的に多い。	長期休みや月に1回でも計画の中に組み込む。 下校時の短時間でも小人数やマンツーマン対応で、地域の児童館や図書館、降園に連れて行く活動も改善策にある。
3	大き目の福祉車両を運転できるスタッフが少ない。	チャイルドシートの活用や送迎する児童および担当する職員の組み合わせを詳細にシミュレーションして決めている。 法人内の他事業所との合同送迎や運転手の応援体制を取っている。	臨機応変に対応できる専属運転手の確保。 現職員が自信をもって安全に運転できるように練習する。